

第六十五回
帝國議會
貴族院

原蠶種管理法案特別委員會議事速記録第一號

付託議案

原蠶種管理法案

委員氏名

委員長 侯爵大隈 信常君
副委員長 子爵片桐 貞央君

侯爵山内 豐景君
伯爵黒木 三次君
子爵伊集院兼知君
子爵大岡 忠綱君
男爵足立 豐君
男爵肝付 兼英君
男爵岩村 一木君
今井 五介君
阿部房次郎君
宇野 勇作君
長野 忠次君
大西虎之介君
武井覺太郎君

昭和九年三月九日(金曜日)午後一時三十分
九分開會

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレデハ是ヨ

リ原蠶種管理法案特別委員會ヲ開キマス

○政府委員(子爵織田信恒君) 大臣ガ差支

第四部第一〇類 原蠶種管理法案特別委員會議事速記録第一號 昭和九年三月九日

貴族院

一

ゴザイマシテ私カラ提案ノ理由ヲ説明サシ
テ戴キタイト思ヒマス、近時人造絹絲ノ進
出ガ著シキモノガアリマスルト共ニ、海外
機業ノ進歩ニ伴ヒマシテ、益々優良齊一ナル
生絲ヲ要望セラルルニ至リマシテ、茲ニ生
絲品位ノ向上ト生産費ノ低下トハ、我國蠶
絲業ノ更生上、緊急ノ要務タルニ至リタノデ
ゴザイマス、生絲品位ノ優劣ハ、原料繭ニ
依リ左右セラルル所多キノミナラズ、生絲
原價ノ八割ハ原料繭ノ價額デアリマスルカ
ラ、原料繭ヲ改良イタシ、其生産費ヲ低下
セシムルコトハ、畢竟生絲品位ノ向上ト生
産費ノ低下トヲ圖ル所以デゴザイマス、即
チ我國蠶絲業ノ更生ハ、原料繭ノ改良統一ヲ
基調トセネバナラスノデアリマスガ、原料繭
ノ品質向上ハ蠶品種ノ改良ニ依リ、繭質ノ
均齊ハ蠶品種ノ統制ニ俟タネバナラスノデ
アリマス、然ルニ現在我國ニ於ケル蠶ノ品
種ハ、原蠶種ニ於テ既ニ其數ガ約六百種ニ
達シ、雜駁混淆ヲ極メマスルト共ニ、優良生
絲ノ生産ニ適セザル品質不良ノモノモ少ク
ナイノデアリマス、而シテ之ガ爲メ蠶種製
造者ハ蠶種ノ過剩ニ苦ミ、其經營ヲ困難ナ
ラシムルト共ニ、徒ニ新品種ノ育成ニ専念

イタシマシテ、爲ニ益、其雜駁ヲ招來シ、
養蠶者ハ之ガ爲メ蠶種ノ取捨選擇ニ惑フノ
ミナラズ、品種ノ性狀明カナラザル爲メ、
飼育上ニ齟齬ヲ來スコトヲ免レヌノデ、勢
ヒ作柄ノ不安定ト出費ノ増大ニ惱ミツツア
ルノデアリマス、製絲業者モ亦原料繭ノ雜
駁ニ伴フ繰絲能率ノ減退ト、生絲品質ノ不
齊ニ苦シミツツアルノデアリマシテ、此狀
態ヲ以テシテ、繭絲類ノ生産費ノ低下ト品
質ノ向上トヲ望ムコトハ不可能デアリマス、
加之今後我國蠶絲業ハ、各業ニ互リ統制的
施設ヲ講ズルコトノ必要益々切實ナルモノ
ガアルノデアリマスガ、就中蠶絲業ノ根源
ヲ爲ス蠶種ニ付テ、適當ナル統制ヲ圖リ得ル
制度ヲ樹ツルコトハ、焦眉ノ急務デアリマ
ス、政府ハ從來優良品種ノ選出育成ニ努ム
ルト共ニ、原蠶種ノ製造配付ヲ爲シ來ツタノ
デアリマスガ、現行制度ノ如ク、蠶種製造
者ニ原蠶種ノ製造ヲ認め、且ツ蠶種ノ輸移入
ヲ自由ト爲スニ於テハ、到底所期ノ目的ヲ
達スルコトハ出來ナイノデアリマス、茲ニ
於テ政府ハ今般雜駁ナル蠶品種ヲ整理シ、
優良品種ノ普及ニ依リ繭絲類ノ生産費ノ低
下ト品質ノ改善トニ資スルト共ニ、蠶絲業

ノ非常時ニ際シ、蠶種ノ統制ヲ期シ得ベキ
制度ヲ樹立スル爲ニ、原蠶種管理法ヲ制定
シ、原蠶種ノ製造ヲ國家ニ於テ管理スルト
共ニ、必要ニ應ジ蠶種ニ關スル統制施設ヲ
行フノ權限ヲ保留セムトスルモノデアリマ
ス、而シテ本案ノ骨子トスル所ヲ申上ゲマ
スト、第一ハ、原原種ハ政府ニ於テ專ラ製
造シ、之ヲ道府縣並自家用原種製造ノ許可
ヲ受ケタル蠶種製造者ニ配付スルモノトシ
タノデアリマス、第二ハ、道府縣ヲシテ政
府ノ配付シタル原原種ヲ用ヒテ原種ヲ製造
シ、之ヲ蠶種製造者ニ配付セシムルコト、
第三ハ、蠶種製造者ニシテ特ニ農林大臣ノ
許可ヲ受ケタル者ハ、政府ヨリ直接原原種
ノ配付ヲ受ケ、自家用原種ヲ製造スルコト
ヲ得ルモノトシタ點デアリマス、第四ハ、
蠶種製造者ハ道府縣ノ配付シタル原種又ハ
自家用原種製造ノ許可ヲ受ケ製造シタル原
種ヲ用フルニ非ザレバ、普通蠶種ヲ製造ス
ルコトヲ得ズト云フコトト、第五ニ、普通
蠶種ノ製造ニ當ツテハ、農林大臣ノ定メタル
交配形式ニ依ルベキモノトシタ點デアリマ
ス、第六ハ、蠶品種審査會ヲ設置シ、農林
大臣ガ原原種ノ品種及普通蠶種ノ交配形式

ヲ定メトスルトキハ、右審査會ノ議決ヲ
經ルコトヲ要スルモノトシタ點デアリマス、
第七ガ、更ニ蠶種ノ輸移出入ヲ許可制度ト
シタノデアリマス、第八ガ、尙ホ蠶種ノ統
制ニ關シ、當業者ノ自治の方法ニ依リ十分
ナル效果ヲ期シ得ザル非常時ニ於テハ、之
ニ對シ統制ヲ命ジ得ル權限ヲ保留シタ點デ
アリマス、第九ハ、本法ノ制定ニ伴ヒ、蠶
絲業法中必要ナル改正ヲ行フト云フコトト
シタノデアリマス、何卒速ニ御審議ノ上可
決セラレムコトヲ希望イタシマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 是ヨリ、御質
問ガゴザイマスレバ、ドウゾ……

○子爵伊集院兼知君 今政府委員カラ御話
ガアリマシタガ、近來人造絹絲ガ發達シテ
來テ云々ト云フ御話デアリマシタガ、是ハ
御尤モノ御話デアリマス、ソレニ付テハ昔、
村田貴族院議員ガ非常ニ心配セラレタコト
ガアツタヤウニ私ハ覺エテ居リマス、其當時
餘リソレニ付テ皆サンガ關心ヲ有タレナカッ
タノデアリマスガ、今ニ至ッテ其事ガ現ハレ
テ來タヤウニ私ハ思フ、而シテドウシテモ
今政府委員ガ仰セラレタ通り、生絲ノ製造
費、人造絹絲ノ製造費トガ同ジヤウニナル
カ、或ハ近ヅクニアラザレバ、是ハ競争ノ
出來ナイヤウナコトニナリハシナイカト思

ハレルノデアリマス、一體政府ハドノ位ノ
ヤウニ考ヘテ居ラレマスカ、私ノ質問ハ生
絲ヲ造リ出ス一番安イ生産費ハドノ位マデ
イケル積リナンデスカ、ソレカラ御調べニ
ナッテ居ラウト思ヒマスガ、人絹ノ製造
費ノ一番安イノハドノ位ナモノデアリマス
カ、キチントシタ所デナクテモ、參考ノ爲
ニ大抵ノ所ヲ承リタイト思フノデアリマス

○政府委員(子爵織田信恒君) 只今ノ御質
問ハ、我國ノ天然絹絲ノ將來ハ人絹ノ影響
ヲ受ケテ餘程苦境ニ立チハシナイカ、ソレ
ニハドウシテモ生産費ガ人絹ノ程度マデモ
下ルト云フヤウナコトデ競争ヲ試ミナケレ
バイケナイノト思フ、ソレニ付テハ此生産
費ハドノ位デアアルカト云フ御尋ネデアッ
ト思フノデアリマス、詳シイコトハ蠶絲局
長カラ御説明イタシタイト思ウテ居リマス
ガ、唯私カラ一言申上ゲテ置キタイト思フ
ノハ、詰リ從來ノ蠶絲業者ガ執ッテ來タヤ
ウナ政策ノ儘將來ニ臨ンダナラバ、是ハナ
カナ苦境ニ立ツカト思フノデアリマス、
併ナガラ御承知ノヤウニ人絹ト天然絹絲ト
ハ全ク纖維ノ性質ヲ異ニ致シテ居リマシ
テ、此方ハ純然タル動物纖維デ、ソコニ又
餘程特質ガアルノデアリマス、サウ云フヤ
ウナ點デ、全體ノ生産カラ販賣ニ至ルマデ

ノ色ミナ工程ニ對シテ、色ミノ改良工風ヲ
試ミテ參リマシタナラバ、必シモ天然絹絲
ノ將來ハ悲觀スルニ足ラス、決シテ又樂觀
スルコトヲ許シテ居ル譯デハアリマセヌケ
レドモ、其間ノ努力ヲ施スニ於テハ、必シ
モ悲觀スルコトハナイノデヤナイカ、今御
說ニアリマシタ通りノ此生産費ヲ低下スル
コト、若クハ生絲ニ對シマシテノ、一方ニ
ハ高級品ヲ狙フト共ニ、片一方ニ實用生絲
ト云ツヤウナ普通のナモノヲ狙フト云フ

ヤウナコトガ又工風サレテ參リマスルト、
自ラソコニ道モ開ケルノデハナイカ、ソレ
ニ致シマシテモ、先程仰シヤイマシタヤウ
ニ、生産費ノ低下、算盤ガ採レルト云フコ
トデ又新販路ノ開ケルコトモ大事ナコト、
ソレニ付テハ今色ミ研究ヲ致シテ居ル次第
ナンデアリマス、ソレデ我ミト致シマシテ
ハ此天然絹絲ノ將來ト云フモノハ決シテ樂
觀ヲシテ居ル譯デハアリマセヌケレドモ、
ソコニ色ミ工風ヲシ努力ヲ致シマスレバ、
決シテ悲觀スベキモノデハナイト云フノ
デ、極力之ガ改良工風ト云フコトニ努力ヲ
致シテ居ル次第ナンデアリマス、マダ細カ
イ數字ノ點ナドガゴザイマシタガ、是ハ蠶
絲局長カラ御話ヲ致シマス

○政府委員(井野碩哉君) 人造絹絲ト天然
絹ノ關係ニ付キマシテ御尋デゴザイマス
ルカラ、大體ノ今日ノ狀勢ヲ申上ゲテ、今
後ノ趨勢ノ御參考ニ供シタイト思フノデゴ
ザイマスルガ、人造絹絲ト天然絹絲ノ關係
ハ、日本内地ノ關係ト亞米利加ニ於キマス
ル關係ト、自カラ區別シテ考ヘナケレバナ
ラスト思フノデゴザイマスルガ、亞米利加
ニ於キマスル人造絹絲ガ天然絹絲ニ代ッテ
參リマシタ經過ヲ見テ見マスルト、勿論品
質ノ改良ニ依リマシテ品質ガ非常ニ向上セ
ラレテ、天然絹絲ノ……殆ド絹ノ或部分ヲ
補フト云フコトニ於キマシテ其需要ヲ増シ
テ來タコトハ事實デゴザイマスルガ、ソレ
以外ニ見通ガシ得ナイ事實ハ、人造絹絲ヲ
販賣イタシマスル販賣方法ト、竝ニ人造絹
絲ニ對シマスル價格政策ノ問題ガ、今マデ
人造絹絲業者ガ執ッテ參リマシタ事態カラ、
非常ニソレガ今日ノ我國ノ天然絹絲ヲ壓迫
シマスル一ツノ大キナ原因ニナッテ居ルヤ
ウニ聞イテ居ルノデゴザイマス、ソレハ御
承知ノ如ク、日本ノ生絲ヲ向フニ賣リマス
場合ニ於キマシテハ、主トシテ日本ノ輸出
業者ガ向フニ或ハ店ヲ持チ、或ハ向フノ「デ
イーラー」ト申シマスル仲立人ガアリマシ
テ、是ガ箇々のニ各、向フノ機業者ニ日本
ノ天然絹絲ヲ賣ッテ居ルノデアリマスガ、此

天然絹絲ヲ賣リマスル賣先ガ絹靴下ノ工業ニ賣リマス場合ト、廣幅物ニ賣リマス場合ニ依リマシテ、又はハ區別セラレノデアリマス、絹靴下業者ニ對シマシテハ、今日ニ於テモ其纖維ノ性質上矢張り人造絹絲ヲ以テ代ヘ難イ部分ガ多大ニゴザイマスルノデ、今日ニ於キマシテモ人造絹絲ハ其部分ニハ餘リ進出ヲ見ナイヤウナ實情デゴザイマス、唯廣幅物ニナリマスルト絹靴下程ノ特異性ガ、天然絹絲ヲ必要トシナイ限り、此方面ニ向ヒマシテハ相當ニ人造絹絲ノ進出ヲ見テ居ルソデゴザイマシテ、過去十年位前ニ於キマシテハ殆ド八割以上ノモノハ天然絹絲デアリマシタモノガ、五年前位ニナリマスルトソレガ五割位ハ人造絹絲ガ使ハレテ居ル、最近ニ於キマシテハ七割カラ八割ハ殆ド人造絹絲ヲ使ッテ來テ居ル、是ハ亞米利加ニ於キマスル所ノ廣幅織業者ノ數ガ約千二百……ト申シマスガ、其位ノ業者ガ居ルノデゴザイマスガ、是等ガ、其業態ハ非常ニ大キナ機業者モゴザイマスガ小サナ機業者モアル、ソレガ絶エズ日本ノ生絲ノ價格ノ變動ノ爲ニ、其間損ヲスル者モアリ、又其販賣方法ニ於キマシテモ、人造絹絲ノ會社ハ絶エズ消費宣傳施設ニ付キマシテ、自ラ色色ノ手段ヲ講ジテ、機織業者ニ人造絹絲ヲ

渡シサヘスレバ……、絹絲自體ヲ渡シテ居リサヘスレバ、ソレガモウ既ニ「デパート」ニ賣ラレテ、右カラ左ニ賣ラレテ居ル、其色ミノ「デザイン」ナリ又模様ナリ、其他色色ノ工風ニ付キマシテハ、人造絹絲業者ガ自ラ色ミノ工風ヲ致シマシテ、サウシテ機屋ニハソレ等ノ苦勞ヲサセナイデ賣ッテ行クト云フ賣リ方ガ、非常ニ今日機織業者ヲシテ安心シテ人造絹絲ヲ使フ、又價格ガ御承知ノ如ク亞米利加ノ人造絹絲ノ會社ハ「ヴィスコース」其他大キナ會社ガ二三デゴザイマスカラ、價格モ半年ナラ半年位ハ變動サセナイト云フヤウナ賣リ方ヲシテ居リマスカラ、安心シテ機業者ガ之ヲ買フ、結局人造絹絲ヲ使ッテ居レバ、機業者ハ其經營ガ安全デアルガ、天然絹絲ヲ使フ者ハ其點ハ非常ニ人造絹絲ニ負ケテ居ルト云フコトハ、今日人造絹絲ヲシテ亞米利加ニ於ケル發達ヲ大ナラシメタ大キナ原因デハナイカト私共ハ考ヘテ居リマス、先程申上ゲマシタヤウニ無論品質ノ向上モ一ツデゴザイマスルガ、其販賣方法ナリ、販賣組織ニ於キマシテ、非常ニ天然絹絲ニ勝ッテ居ルト云フコトガ一ツノ大キナ原因ト思フノデゴザイマシテ、今後然ラバ其點ハドウデアアルカト云フコトニナリマスルト、今日亞米利加ノ「ヴィ

スコース」ナリ、其他ノ生産費ガ幾ラデアアルカト云フコトハ、是ハチヨット私共ニモハッキリ分ラナイノデゴザイマスガ、今日「ボンド」約六十五「セント」デ「ヴィスコース」デハ賣ッテ居ルノデアリマス、然ルニ天然絹絲ノ方ハ「ボンド」一弗四五十「セント」ヲ今日デハ往來シテ居ル譯デゴザイマスガ、約二倍ノ價格ヲ維持シテ居ルノデアリマスガ、之ガ生産費ノ上ニ於テドノ位ノ競争能力ヲ持ッテ居ルカト云フコトハ非常ニムヅカシイ問題デゴザイマシテ、過去ニ於キマシテハ或ハ人造絹絲ハ天然絹絲ノ約三分ノ一、天然絹絲ハ三倍位ノ價格ナラバ、賣レルト云ッテ居リマシタガ、今日デハ約二倍デナケレバ賣レナイト云フ狀態デアリマスカラ、今後ノコトハ無論分リマセヌガ、併シ業者全體ノ觀察ト致シマシテハ、此程度ノ價格デ行ケバ相當ニ人絹ニ對シテ對抗シテ行ケルノデヤナイカ、賣リ方カラ申シマシテ、先程申シマシタヤウニ價格ガ非常ニ不安定デアリマスコトハ、是ハ困ルノデアリマスガ、假ニ此程度ニ於テ價格ガ安定シ、サウシテ今後日本ノ輸出業者ナリ、製絲業者ガ相當ニ此需要増進施設ニ對シテ努力ヲ加ヘテ行ツタナラバ、無論此程度ニ於テ人絹ニ十分對抗シテ行ケル見込ヲ持ッテ

居ルノデハナイカト、我々ハ考ヘテ居ル、又其絲自體ノ性質カラ申シマシテモ、先程政務次官ノ仰セラレマシタヤウニ、片一方ハ動物纖維デアリ、片一方ハ植物纖維デアルト云フコトカラ來ル違ヒモ相當ニゴザイマシテ、元々同ジ「ボンド」ヲモノデアリマシテモ、相當ニソコニ、私共モ倍以上ノ値開キハ當然アッテ然ルベク色ミノ要素ヲ持ッテ居ルト考ヘテ居リマス、デスカラ今後此程度デ亞米利加ノ狀態ガ續イテ參リマシタナラバ、天然絹絲ノ將來ハサウ悲觀スルニ足ラナイト斯ウ考ヘテ居リマス、唯人造絹絲ニ對シマスル生産費ト云フモノモ、色ミ改善ヲ加ヘルコトモゴザイマシテ、段々ト安クシ得ルコトモゴザイマセウシ、又品質モ天然絹絲ノ相當ノ優良ナ部分ヲ更ニ眞似ルト云フコトモ出來テ參リマセウシ、ソレ等ノ點ニ於テ決シテ樂觀ハ出來ナイト思ヒマスルガ、必シモサウ悲觀ハシナクテモ宜イト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、國內ニ於キマスル天然絹絲ト人造絹絲ノ關係ハ、是ハ我國ノ生絲ノ需要ハ今マデノ狀態ヲ以テシマスレバ、亞米利加ガ約九割近クデアリ、其他ガ國內デゴザイマスカラ割合ニ國內ノ需要ハ少イノデゴザイマス、假ニ内地ノ人絹ガ非常ニ發達イタシマシテモ、亞米利加

ノ需要サヘ段々殖エテ吳レマズレバ、國內ノ需要ノ減ルコトハ大シテ心配ハナイノデゴザイマスガ、最近ノ事情ニ依ルト人造絹絲ノ消費ハ、當初ハ非常ニ天然絹絲ガ高ウゴザイマシタ爲ニ需要ガ興テ参リマシタガ、又最近ノ如ク五百圓六百圓代ニ下ッテ参リマス、機業地ニ於テモ矢張り天然絹絲ヲ多ク使フ、日本人ノ多年生絲ニ慣レテ参リマシタ此生絲ヲ尊重スルト云フ感ジハ、

達ヒハ自ラ其處ニ現ハレテ來ルノデアアルガ、相當ニ内地ニ於テハマダ二倍トカ三倍トカ云フヨリモ、寧ロ天然絹絲ノ方ガモウ少シ高クカカッテ居ル狀態デアリマス

亞米利加ヨリモ日本ノ方ガ更ニ一層強イヤウニ我ミモ見テ居リマシテ、價サヘ安ケレバ無論人絹ニ對抗シテ相當ノ國內需要ガ起リ得ル、現ニ最近相場ガ安クナツタ爲ニ、機業者モ人造絹絲ニ代ヘテ天然絹絲ヲ用ヒ出シテ來タト云フ實情ガ能ク見エテ來テ居ル、是等ノ點ヲ以テ更ニ天然絹絲ノ生産費ヲ相當ニ下ゲレバ、人造絹絲ニ對抗シテ國內ニ於テモ相當ノ需要ガアルト云フ風ニ

ナツテ居リマス、國內ニ於キマスル生産費ガドノ位ニナルカト云フト、是モ各人絹業者ニ依ッテ區々デゴザイマスカラ、生産費ガ今の確ニ幾ラト云フコトヲ申上ゲラレマセヌガ、大體、相場デ百斤一俵九十圓カラ百圓前後ニ人絹ガヤツテ居ル、生絲ノ方ハ五百圓位ニナル、唯ソレハ單位ハ片方ハ十二貫、片方ハ、十六貫デゴザイマスカラ、其點ノ

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○政府委員(井野碩哉君) 其問題ハ非常ニムヅカシイ御尋ネデゴザイマシテ、私共モ今日ノ此絲價デ以テ農村ガ果シテ引合ッテ行クコトガ出來ルカドウカニ付テハ、深ク色ミナ點ニ於テ憂ヲ有ッテ居ルノデゴザイマスガ、大體此生絲ノ生産費、即チ絲ヲ製造イタシマスル生産費ノ八割ガ繭ノ所謂原料代デゴザイマス、從テ其八割ノ繭ノ原料代ニ、假ニ絲價ガ六百圓ト致シマスルト、生絲製造費ヲ假ニ二百二十圓ト致シマスレバ、約繭ガ三十掛ト云フコトニナル、三十掛ノ繭デゴザイマスルト絲量ガ假ニ十二匁ノ繭ト致シマスレバ三圓六十錢ニ賣レル譯

リマシタ此生絲ヲ尊重スルト云フ感ジハ、亞米利加ヨリモ日本ノ方ガ更ニ一層強イヤウニ我ミモ見テ居リマシテ、價サヘ安ケレバ無論人絹ニ對抗シテ相當ノ國內需要ガ起リ得ル、現ニ最近相場ガ安クナツタ爲ニ、機業者モ人造絹絲ニ代ヘテ天然絹絲ヲ用ヒ出シテ來タト云フ實情ガ能ク見エテ來テ居ル、是等ノ點ヲ以テ更ニ天然絹絲ノ生産費ヲ相當ニ下ゲレバ、人造絹絲ニ對抗シテ國內ニ於テモ相當ノ需要ガアルト云フ風ニ

ナツテ居リマス、國內ニ於キマスル生産費ガドノ位ニナルカト云フト、是モ各人絹業者ニ依ッテ區々デゴザイマスカラ、生産費ガ今の確ニ幾ラト云フコトヲ申上ゲラレマセヌガ、大體、相場デ百斤一俵九十圓カラ百圓前後ニ人絹ガヤツテ居ル、生絲ノ方ハ五百圓位ニナル、唯ソレハ單位ハ片方ハ十二貫、片方ハ、十六貫デゴザイマスカラ、其點ノ

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○政府委員(井野碩哉君) 其問題ハ非常ニムヅカシイ御尋ネデゴザイマシテ、私共モ今日ノ此絲價デ以テ農村ガ果シテ引合ッテ行クコトガ出來ルカドウカニ付テハ、深ク色ミナ點ニ於テ憂ヲ有ッテ居ルノデゴザイマスガ、大體此生絲ノ生産費、即チ絲ヲ製造イタシマスル生産費ノ八割ガ繭ノ所謂原料代デゴザイマス、從テ其八割ノ繭ノ原料代ニ、假ニ絲價ガ六百圓ト致シマスルト、生絲製造費ヲ假ニ二百二十圓ト致シマスレバ、約繭ガ三十掛ト云フコトニナル、三十掛ノ繭デゴザイマスルト絲量ガ假ニ十二匁ノ繭ト致シマスレバ三圓六十錢ニ賣レル譯

リマシタ此生絲ヲ尊重スルト云フ感ジハ、亞米利加ヨリモ日本ノ方ガ更ニ一層強イヤウニ我ミモ見テ居リマシテ、價サヘ安ケレバ無論人絹ニ對抗シテ相當ノ國內需要ガ起リ得ル、現ニ最近相場ガ安クナツタ爲ニ、機業者モ人造絹絲ニ代ヘテ天然絹絲ヲ用ヒ出シテ來タト云フ實情ガ能ク見エテ來テ居ル、是等ノ點ヲ以テ更ニ天然絹絲ノ生産費ヲ相當ニ下ゲレバ、人造絹絲ニ對抗シテ國內ニ於テモ相當ノ需要ガアルト云フ風ニ

ナツテ居リマス、國內ニ於キマスル生産費ガドノ位ニナルカト云フト、是モ各人絹業者ニ依ッテ區々デゴザイマスカラ、生産費ガ今の確ニ幾ラト云フコトヲ申上ゲラレマセヌガ、大體、相場デ百斤一俵九十圓カラ百圓前後ニ人絹ガヤツテ居ル、生絲ノ方ハ五百圓位ニナル、唯ソレハ單位ハ片方ハ十二貫、片方ハ、十六貫デゴザイマスカラ、其點ノ

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○政府委員(井野碩哉君) 其問題ハ非常ニムヅカシイ御尋ネデゴザイマシテ、私共モ今日ノ此絲價デ以テ農村ガ果シテ引合ッテ行クコトガ出來ルカドウカニ付テハ、深ク色ミナ點ニ於テ憂ヲ有ッテ居ルノデゴザイマスガ、大體此生絲ノ生産費、即チ絲ヲ製造イタシマスル生産費ノ八割ガ繭ノ所謂原料代デゴザイマス、從テ其八割ノ繭ノ原料代ニ、假ニ絲價ガ六百圓ト致シマスルト、生絲製造費ヲ假ニ二百二十圓ト致シマスレバ、約繭ガ三十掛ト云フコトニナル、三十掛ノ繭デゴザイマスルト絲量ガ假ニ十二匁ノ繭ト致シマスレバ三圓六十錢ニ賣レル譯

デアアル、一體三圓六十錢位ニ賣レバ農家トシテ引合フカドウカト云フコトニナルト、所謂繭ノ生産費ノ問題ニ觸レテ來ル譯デゴザイマスガ、是ガ亦全國生産狀況ノ色ミノ違ヒニ依リマシテ、非常ニ區々ニナツテ居リマス、米ノ生産費ヨリモモット高低ガヒドイ譯デアリマシテ、天然ノ狀況ニ非常ニ惠マレテ居リマス所ハ割合安イ生産費デ出來マスガ、天然ノ狀況ニ惠マレテ居ナイ所ハ高クナル、又其飼育方法ニシマシテモ、周密ナル飼育方法ヲヤリマス場合ト、粗笨ナル飼育方法ヲヤリマス所ニ依ッテ生産費ガ違フ、今日一體繭ノ生産費ガ幾ラデアルト云フコトモ、農林省デモ關心ヲ有ッテ研究ヲ致シテ居リマスガ、全國ニ互ル調査ハ政府ト致シマシテハマダ無イノデアリマス、民間團體ガ致シマシタモノニ依リマス

ス、假ニ安クナリマシテモ勞力ガ無駄、只働キニナルト云フヤウナコトニナリマシテモ、繭ヲ作ッテ行クト云フコトニナルト思ヒマス、繭ハ農家ノ現金收入ト云フ關係カラ、農家トシテハ之ヲドノ位迄ニシタナラバ、農村トシテ繭ノ生産ガ出來ナクナルカト云フコトニ付テハ、餘程ムヅカシイ問題デハナイカト考ヘルノデアリマス

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

困ッテ居ル所ガ甲州、信州邊リニハ實際アル、其農家ノ生産費ニ依ッテ相當ニ出ルト云フ所ガ肝腎ナコトダト私ハ思フ、サウシテソレ位ノ値段ナラバ農村デモ兎ニ角ヤツテ行ケル、斯ウ云フ譯ナノデゴザイマセウカ

○男爵肝付兼英君 私ハ原蠶種國家管理法案ノ御趣旨ニ付テハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、誠ニ機宜ニ適シタ所ノ御施設デアルト大イニ喜ンデ居リマス、此點ニ付テハ既ニ衆議院ニ於テ微ニ入り細ニ互ッテ御審議ニナツタヤウデゴザイマシテ、今更私ガ彼此レ御質問申上ゲル問題モナカラウト思ヒマスルガ、唯チヨット私ガ耳觸リニ感ジマスノハ、此人造絹絲ト天然絹絲トノ比較ニ於キマシテ、常ニ天然絹絲ハ動物質デアルト云フコトヲ、何時デモ眞向ニ驕シテ仰セニナルト云フコトハ、ドウモ私ハ耳觸リデナラナイ、此點ニ付テハチヨット將來ノ人造絹絲ガ何處マデ發展スルカト云フ問題ニ付テ少シ檢討イタシテ見タイト考ヘテ居リマス、成程現狀ニ於キマシテハ天然絹絲ト人造絹絲トノ間ニハ、仰シヤル通りニ動物質植物質ト云フモノノ相違ノアルコトハ申ス迄

モナイコトデアルノデスガ、今日ノ此合成化學ノ發達ニ伴ヒマシテ、動物質ト雖モ合成シ得ナイト云フコトハ斷定出來ナイノデアリマシテ、御承知ノ通り「ユリヤ」ト申シマス尿素等モ、合成ガ出來ヌモノトナッテ居ッタニ拘ラズ、今日デハ既ニソレヲドン／＼合成ヲ致スト云フヤウナ状態ニナッテ居リマス、今日ニ於テハ僅カ十五年間ニ、千二百倍生産能力ヲ膨脹シタト云フヤウナ發展狀況カラ見マス、人造絹絲ノ將來ハ相當怖ルベキモノガアルト思ヒマス、物理的性質ニ於キマシテ細サト云フヤウナ問題モ、モウ今日ハ相當ノ所マデ研究ガ進ンデ、天然絹絲ニ近ク追隨シ得ルモノデナカラウカト考ヘマス、ト同時ニ先程モ申上ゲマシタ動物質デアルト云フ唯一ノ強味ヲスラ、近キ將來ニハ必ず打壞シ得ル所マデ行キ得ナイト云フコトハ、誰モ斷言出來ナイト思ヒマス、是ハ餘程御用心ニナラナケレバナラヌ問題デナカラウカト思ヒマス、特ニ最近ハ染付ケル性質ニ於テ、天然絹絲以上ニ人造絹絲ノ方ガ優秀ナモノガアルト云フコトハ、染色業者自體ガ常ニサウ言ッテ居ルノデアリマス、又細サヲ揃ヘマス點ニ於テモ、天然絹絲以上ニ、一方ハ機械的ニ作ル爲ニ非常ニ整備サレテ居ルト云フ點カラシテモ、

將來私ハ益々發展スルモノダラウト考ヘルノデアリマス、サウ云フ見地カラ考ヘマシテ、今回ノ原蠶種國家管理法ノ御趣旨ハ勿論賛成デハゴザイマスガ、是ダケデハマダ不満足デアル、生産費ヲ低下シ、品質ヲ統一ナサルト云フコトハ非常ニ結構デアリマス、片方ノ人造絹絲ノ方ハ人工的ニ相當ノ改良ヲ加ヘラレマスガ、此蠶ノ方ハ現在ゴザイマス最上ノ蠶ヲ標準ニシテ、御改良ニナルト云フコトデアリマスガ、此最上ノ蠶ヲモット能クスルト云フコトニ付テハ相當ノ困難ガ伴フト思ヒマス、一朝一夕ノ問題デハナカラウト思ヒマスガ、私ノ御願ヒ申上ゲマスコトハ、ドウゾ統一ナサツタ曉ニハ、其現在アル最上ナル繭ヲ以テ満足ナサラナイデ、其化學的性質ト物理的性質ト共ニ俱ニ、今日ノ人造絹絲デハ到底及バナイト云フ性質ヲモット發揮シテ戴クヤウナ御研究ヲ、相當ナ金ヲカケテヤッテ戴キタイト云フノガ私ノ御願ヒナシデアリマス、大分ムヅカシイ問題ダト思ヒマスガ、是等ハ或ハ桑デナク、モット外ニ良イ食料ヲ與ヘタラモット違ッタ……化學的性質ノ違ッタモノガ出來ハセヌカ、物理的ニモモット優秀ナモノガ出來ハセヌカト云フコトガ考ヘラレルノデヤナイカト思ヒマス、或ハ又蠶ニモット言

ヒ含メテ見タラ、蠶自身ガモット研究シテ、違ッタ物ヲ出シ得ルカモ知レマセヌ、ソレ等ハ専門ノ方ニ十分御信賴申上ゲテ、將來トモ到底人造絹絲デハ追付カスト云フモノヲ、モット／＼御研究ニナッテ置ク必要ガアルノデヤナイカト云フコトヲ、痛切ニ私ハ感じテ居ルノデアリマス、唯特ニ天然絹絲トシテ私ガ唯一ノ望ミヲ持ッテ居リマスノハ、食料ト致シマスル桑ニシテモ、蠶其モノニ致シマシテモ、年々「レピート」サレルモノデアリマシテ、繰返シ／＼サレマシテ、石炭ヤ石油ノ如ク其原料ガ無クナルモノデナイト云フ所ガ非常ニ強味デアラウト思ヒマス、片方ノ人造絹絲ノ方ハ現在ハ針葉樹……特殊ナ針葉樹ノ原料ト致シマスル相當ナ優秀ナ「パルプ」ヲ使ッテ居リマス爲ニ、品質ハ現在ハ宜シウゴザイマス、併シ斯ノ如ク増産サレマシタ結果ハ、段々ト優秀ナル原料ヲ手ニ入レルト云フコトガ困難ニナッテ、内地デハ勿論遠ク海外ニマデ漁ラナケレバナラヌ、而モソレガ品質ガ悪クナッテ來ルト云フコトニナリマスレバ、此原料ノ品質ヲ輸入シ、而モ遠イ所カラ相當ナ運賃ヲカケテ運ンデ來タ結果、果シテ今日ノヤウナ生産費ヲ維持シ得ルヤ否ヤト云フコトハ、將來相當ハ行詰ル問題ダラウト思ッテ居リマス、ソコガ天

然絹絲ノ非常ニ強味デアル、サウ云フ時代ガ來ルマデニ十分ナル御研究ヲ以テ、特殊ナ性質ヲ與ヘルヤウニ御研究ヲ戴キマスレバ、將來益々日本ノ特殊ナ農村ノ副業的意味ニ於テ、最モ其意義ガアル所ノ天然絹絲ノ將來ト云フモノハ、相當有望ダト私ハ其點ニ於テ確信ガ出來ルノデゴザイマスガ、唯其確信ノ出來ル如何ハ、要スルニ將來ノ生絲ノ物理的性質、竝ニ化學的性質ノ御改良ノ如何ニ歸著スルモノデ、衆議院ノ方面ノ御質問ノ中ニモ、羊毛方面ニ大イニ將來ハ進出シナケレバिकास、現ニ進出シツツアルノダト云フ御話モゴザイマスガ、現在ノ人造絹絲ノ性質ガ天然絹絲ニ益々接近スルト云フコトニナリマス、天然絹絲ノ用途ヲ幾ラ改良シテ見テモ、又ソコニ必ず追從シテ來ル、現ニ「ステープル・ファイバー」ノ如キハ寧ろ天然絹絲ノ紡績ノ方ヲドン侵シツツアル、羊毛方面ニ付テハ寧ろ天絹ヨリモ人絹ノ方ガマダ／＼私ハ進出シ得ル見込ガ十分アルト思フ、今日皆様が御使ヒニナリマス例ノ「メリヤス」ノ「シヤツ」アタリモ、純毛ヨリモ寧ろ「ステープル・ファイバー」ガ相當入ッテ居ル方ガ伸縮ガ餘リナクテ洗濯シテモ相當縮マナイ、而モ丈夫デアルト云フ意味カラ、益々此「ス

テ・ブル・ファイバー」ト云フモノガ此毛織物ニ混用サレルヤウナ傾向ニナッテ來テ居リマス、是等ハ寧ろ天然絹絲ガ入ッテ行クヨリモ、人造ノ絹絲ノ方ガ入ッテ行クマフト云フヤウナ結果ニナリ、相當ナ強靱性ヲ將來人造絹絲ニ與ヘルコトガ出來ルヤウニナリマスレバ、例ノ「ロープ」ノ問題ト云フヤウナモノモ、恐ラク矢張り人造絹絲ニ侵サレテシマフノダ、結局天然絹絲ノ行クベキ道ガナクナル、從テ今靴下ガ特質ヲ持ッテ居ルノダト云フヤウナ御話モゴザイマスガ、私ハ其特質ハ現在デコソ誇ラレマスガ、將來イツマデ誇ッテ居ラレルカ疑問ダと思フ、要スルニ人造絹絲ヲ以テシテハ、ナカナカ將來共ニ追付ケナイ特質ヲ、モット益々發揮スルヤウニ御盡力ヲ戴クコトガ、折角此原蠶種ヲ統制管理遊バス上ニ於テ最モ必要ナル條件デヤナイカ、其點ニ付テノ御計量ガ、ドウモチト内容ヲ拜見イタシマ스가、ハッキリ窺ハレナイノデアリマスガ、其點ニ付テノ政府トシテノ御考ハ如何ナモノデアリマセウカ、伺ッテ置キマス

○政府委員(子爵織田信恒君) 只今肝付男爵カラノ御質問ハ誠ニ御尤モデ、私共モ御同様ニ考ヘテ居リマス、先程申上ゲタ動物質云々ト云フコトモ、全ク此特質ヲ申上ゲ

タ次第デアッテ、特質ニ依ッテ將來之ヲ尙ホ色々改良研究シテ參ルト云フコトヲ致シタイト思フノデアリマス、御承知ノヤウニ、蠶、生絲等ニ對スル研究ハ日本ハ隨分列國ニ較ベテ進ンデ居ルト思フノデアリマス、恐ラク日本獨特ノ一ツノ研究ガ確カニアルヤウニ思ッテ居リマス、今後トモ此研究ヲ續行シテ、今御話ニナリマシタヤウナ、尙ホ將來此特質ヲ發揮シテ行クト云フ研究ハ、是非ヤリタイト思フノデアリマシテ、今回モ豫算ノ中ニ新規事業ノ研究費トシテ是ガ計上サレテ居ルノデアリマス、金額ノコトハ決シテ我々ノ満足スル金額デハゴザイマセヌケレドモ、矢張り今仰セラレマシタヤウナ考ヲ我々モ持チマシテ、一般ノ財政ノ許ス範圍デ、少額ナガラソレヲ以テ研究ヲ進メテ、所謂科學的、物理的ノ研究ヲ進メテ參リタイト、斯ウ思ッテ居リマス

○政府委員(井野碩哉君) 今政務次官カラ御答申上ゲマシタヤウニ、肝付男爵ノ御意見ニ私共モ全ク同感デゴザイマシテ、原蠶種國家管理ヲ致シマスダケデ、今後ノ日本ノ蠶絲業ガ人造絹絲ニ對シテ安心ガ出來ルト云フコトハチヨットモ考ヘテ居リマセヌ、是ト伴ヒマシテ人造絹絲ニ對シテ天然絹絲ノ本來ノ特質ヲモット發揮サセルヤウナ色

色ノ研究、竝ニ他ノ纖維ニ對シマスル天然絹絲ノ進出方法、即チ羊毛ナリ綿絲ナリノ方面ニ向ッテ天然絹絲ヲ代用セシメテ行ク方法、即チ非常ニ高級ナ繭デゴザイマセヌデモ、生産費ノ非常ニ安イ繭ヲ作りマシテ、而シテソレ等ノ纖維ニ對抗シテ行クヤウナ方法ノ研究、是等ハ我々ノ最モ切望セル所デゴザイマシテ、之ガ豫算ヲ成立セシメタイト思ヒマシテ、色々苦心ヲ致シタノデゴザイマスルガ、十分ナル經費ハ取レナカッタノデアリマスガ、約二十萬圓ホド今後數箇年ニ互リマシテ其經費ガ取レタノデゴザイマス、從テ其經費ニ依リマシテ今ノ御話ノ點ヲ研究シテ行キタイ、ソレト原蠶種ノ管理ト相俟ッテ、ソレ等ノ研究ニ依リマシテ良キ品種ガ出來マスナラバ、之ヲ原蠶種ノ管理ノ方ニ繰入レマシテ、サウシテ國內ノ養蠶經營ヲ指導シテ行キタイト云フヤウニ考ヘテ居リマス

○男爵肝付兼英君 ドウゾ十分御努力アラムコトヲ希望イタシマス

○武井覺太郎君 私ハ、本案ハ衆議院デモ御反對意見ナク、全部賛成ノ意見デ通過シテ、本院ハ廻付サレタモノデゴザイマスガ、果シテ本案ガ蠶業界ニ尙ホ有利デアるかドウデアるかト云フコトヲ甚ダ疑問トス

ル者デアリマス、從テ本案ニ付キマシテ各項ニ分ッテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、先ヅ第一ニ蠶品種ノ統一ニ關スルコトデアリマスルガ、御説明ニ依リマスレバ、本法施行ノ趣旨ハ蠶品種ノ統一ニ在ルトノコトデアリマスガ、我國現在ニ於キマシテ飼育セラレテ居リマスル蠶品種ハ約六百種トノコトデアリマスルガ、有ラユル生物デ品種數ガ六百モアルトハ誠ニ驚クノ外ナイ、名稱數ヲ品種數ト誤認セラレテ居ルノデハナイデセウカ、品種數ガ六百トハ何人ニ依リテ發見セラレタノデアリマセウカ、若シ名稱數ガ多イト云フナラバ、敢テ驚クノ要ハアリマセヌガ、日本人七千萬總テ名前ハ違フノデアリマスガ、若シ此名前ヲ統一シタナラバ、如何ナル結果ニナリマセウカ、若シ統一シタナラバ、頗ル面倒ナコトバカリ起ルノハ想像ニ難クアリマセヌ、今後本法ニ依リマシテ品種數ノ統一ヲ爲スモノデアリマスカ、將又名稱數ノ統一ヲ爲スモノデアリマスカ、此點ヲ伺ヒタイ、第二ニ本法施行ノ曉ニハ蠶作ノ安定ガ期シ得ラレルヤウナ御説明ニ承リマシタガ、蠶品種ガ多ク、例ヘバ蟲質ハ弱イガ、繭質ノ良キモノ、蟲質強健デハアルガ、繭質ガ惡イモノ等ガ混ッテ居ル爲ニ安定シテ居ルガ、或ル品種ニ限定シ

タナラバ、違作ノ場合ニハ一律ニ被害ヲ蒙ルノデハナイデセウカ、本邦蠶絲業上由々シキ結果ニナリハセヌカト杞憂スルモノデアリマス、以上第一第二ノ理由ノミヲ以テスルモ、蠶品種統一ト云フコトガ果シテ必要アルモノデアルカドウカ、疑ヲ持ツ者デアリマス、第三ニ繭質ノ統一ノ點デアリマス、品種ヲ限定シテ繭質ヲ統一ナシ得ルト云フコトデアラナラバ、如何ナル飼育ヲ爲シテモ、繭質ノ統一ヲ爲シ得ルモノトハ考ヘルコトガ出来ナイノデアリマス、當局ガ言ハルル蠶品種間ノ差ト一品種ノ飼育環境ニ依ル差ト何レガ其差ガ多イモノデアリマセウカ、若シ一品種間ノ環境ニ依ル差ガ品種間ノ差ヨリモ多イ場合ニハ、品種ノ統一ヲ期シ得ラレナイノデアリマス、若モ其比較數其他參考ナルベキ調査等ガアリマシタナラバ御示シテ願ヒタウゴザイマス、第四ニ生絲品位ノ向上ニ付テデアリマスガ、生絲ノ原料タル繭質ニ付テ定マラナイ以上、生絲品位ノ向上ハ何レノ點カラ達シ得ラルルノデアリマセウカ、蠶品種ノ向上モ生絲品位ノ向上ニ寄與シタ所多クッタウトハ思ヒマスガ、製絲技術ノ進歩發達が大イニ與ッテ力アルノデアリマシテ、當局ハ此點如何ニ御考ヘニナリマスカ、第五

ニ、産繭ノ統制ニ付テデアリマス、本法律立案ノ當初ニ於キマシテハ、産繭ノ統制ト云フコトガ多分ニ含マレテ居ッタヤウニ記憶シテ居リマスガ、四年後ニ於ケル産繭ヲ豫測スルコトガ出来マスカ、養蠶者ノ生産スル繭ヲ統制スルナラバ、四年後ノコトヲ豫測シテ行ハナケレバナリマセヌ、況ヤ人造絹絲ノ發達ヤ生絲需要ノ變遷等ヲ考ヘル際ハ、容易ニ豫測ハ出来兼ネルノデハナイデセウカ、以上ノ疑義ノ外、更ニ數項ニ分チ御質問イタシタイト存ジマス、政府ハ現在窮境ノ極ニ在リ没落過程ニ在ル中小蠶種業者ノ潰滅ヲ早メル御考デアリマセウカ、本法ヲ施行セラルル以上ハ政府ハ責任ガアリマス、當然ノ歸結トシテ現在ヨリ一層窮境ニ拍車ヲ掛ケルノデハナイカト杞憂セラルルノデアリマス、若モ中小蠶種業者ヲ救済スルニハ、ソレ等ヲ合同セシメテ大蠶種業者ヲラシメルコトガ必要トナリマス、若シ斯クナル場合ニハ、府縣ノ蠶業試驗場ノ存立ノ必要ハナイ結果ニナリハセヌカ、眞ニ本法施行ノ趣旨ハ奈邊ニアルノデアリマスカ、中小蠶種業者ヲ整理ナサル御計畫カ、或ハ府縣ノ蠶業試驗場ヲ廢止セラルル御計畫カ、此點モ篤ト承リタイト存ジマス、次ニ從來ノ經驗ヨリ致シマスレバ、當局ノ言

ハルル如ク、蠶品種ノ改良ニ依リ蠶絲業一般ニ向上改良ノ跡ヲ認メ得ラレノデアリマスガ、是ハ官吏ノミノ力デハナク、當業者ノ心血ヲ濺イダ努力ノ結晶ニモ負フ所大ナルモノガアリマス、愛知縣ノ故河田悅治郎氏ノ如キハ、實ニ好イ適例デアリマス、同氏ノ如キハ常ニ言ッテ居ラレタノデアリマス、「徹底蠶種ヲ得ルニハ專門知識ハ固ヨリ、資本經費ヲ要スルハ當然デアルガ、此外不具ノ性能ノ持主ガ魂ヲ打込ミ、努力ニ堪フルニアラザレバ、斷ジテ得ラルベキモノデナイコトヲ多年ノ體驗上ヨリ信ズル」云々ト申サレマシタ、斯カル信念ヲ持タル官吏諸君ハ、果シテ有リヤ否ヤ疑ハザルヲ得マセヌ、今後政府ノ官吏ノミニ依リ蠶品種ノ改良ヲセラルルモノトセバ、頗ル心許ナイノデアリマス、ノミナラズ蠶品種ノ改良ノ如キハ、自由研究ニ依リ初メテ效果アルモノデアリマス、米國ナドニ於ケル諸般ノ實例ヲ見マシテモ然リト思フノデアリマス、本年蠶絲會館ニ蠶業研究會ガ開催セラレマシテ、其際出席者ヨリ生絲需要ニ對シ、蠶品種上ヨリ見テ適應スル方策竝ニ用意アリヤトノ質問ニ對シ、其道ノ大家ガ適切ナル回答ヲナスコトガ出来ナカッタヤウニ聞イテ居ルノデアリマス、誠ニ心細

イ次第ト存ジマス、又現在政府ノ配布シテ居ラルル蠶品種ニ付テモ、相當非難ガ多イヤウニ思ヒマス、例ヘバ優良品種ト云ハレテ居ル國蠶十八號國蠶日七號ノ如ク、官吏ノ研究ガ實用トハ遠イ感ガアル證左デハアルマイカト思ハルル適例デアリマス、敍上ノ綜合的結果ヨリ多年本邦蠶絲行政官廳竝ニ研究機關ニ職ヲ奉ジ本邦蠶絲業ニ貢獻セラレタス界ノ權威者タル農學博士加賀山辰四郎氏ハ、先年農林審議會ニ於テ猛然ト原蠶種國家管理法案ノ非ヲ說キ、反對ノ意見ヲ述ベラレタヤウニ仄聞シテ居リマス、右反對意見ハ本當ノ適正ノ意見デアッテ、他ノ者ハ群集ニ附和雷同シタヤウノ感ガアルノデアリマス、朝鮮デハ十數年來蠶業令ヲ施行シテ、實際上朝鮮總督府デ原蠶種ノ管理ヲ行ッテ居ルガ、現在ニ於ケル朝鮮ノ蠶繭、製絲能率、生絲品位ノ、内地ノソレニ比シ劣テ居ル現狀ヨリ見テ、如何ニ原蠶種管理ノ不合理ナルカガ窺ハレルノデアリマス、本員ハ國家百年ノ計ノ爲ニ慎重審議ヲ望ム爲ニ、以上ノ疑義竝ニ意見ヲ申述べマシテ、政府當局ノ懇切ナル答辯ト回答ヲ願フ次第デアリマス

○政府委員(井野碩哉君) 武井委員ノ數點ニ互ッテノ御質問ニ對シマシテ、大體私

カラ御答ヲ申上ゲマスガ、第一點ハ蠶品種ノ統一ト申シテモ、今日六百餘種ノ品種ガアルト云フノハ、ソレハ單ニ名前ダケデアツテ、品種自體ハソシナニ多クハナイノデヤナイカト云フ御尋デゴザイマスルガ、今日ノ品種ノ由ツテ來リマスル本ヲ見マスレバ、御話ノ如ク日本ノ日蠶系、伊太利系、佛蘭西系、支那種等ノ數種ニ分タレルノデゴザイマスガ、ソレ等ノ品種ノ中デ、日本ニ參リマシテカラ交配セラレマシテ出來マシタ品種自體ハ、是ハ相當ニ多數デゴザイマシテ、殊ニソレ等ノ品種ヲ原種又ハ原原種ト致シマシテ、出來マシタモノヲ、色ミ各民間ノ製造業者ナリ、或ハ國ノ試驗場、府縣ノ試驗場ニ於キマシテ、ソレニ研究ヲ加ヘテ、種々ノ特質ヲソレニ持タセマシテ出來上ガリマシタモノガ、今日我國ニアル原原種ノ種類デゴザイマス、其種類ハ我ミガ申上ゲマスヤウニ、六百餘種ノ種類ガアルト云フコトヲ申上ゲテ居ルノデゴザイマシテ、從テ六百餘種ノ品種ト云フモノハ元ミ無論國蠶系、歐羅巴系、支那系ト云フモノノ交配デゴザイマスルケレドモ、交配ノ方法ニ依リマシテ數種ノモノガ玆ニ出來上ツテ居ル、今回之ヲ整理イタシマスコトハ、是等ノ品種ノ中カラ最モ優良

ナリト思ヒマスルモノノ數種ヲ選ビマシテ、而モ其交配形式モ國ニ於テ決メマシテ、養蠶家ニ參リマス場合ニハ、其品種ヲ成ルベク整一ナラシムルト云フ所ニ、原蠶種管理ノ精神ガアルノデゴザイマスルカラ、從テ六百餘種ノ品種ハ、玆ニ原蠶種管理ニナリマスレバ、非常ニ少ナイ種類ニ整理サレルト云フ風ニ我ミハ計畫ヲシテ居ルノデゴザイマス、第二蠶作安定ノ問題デゴザイマスルガ、是モ御承知ノ如ク、今日製絲家ト致シマスレバ、或ル意味ニ於テ出來ルダケ絲量ノ多イ繭ヲ作ラセル、即チ蠶質ハ弱クトモ絲量ノ多イモノヲ欲スル、養蠶家ハ出來ルダケ蠶質ノ强健ナルモノヲ、無論絲量ノ多イノモ宜イノデアリマスガ、ソレヨリモ蠶質ノ强健ナルモノヲ欲スル、玆ニ兩者ノ利害ニ於テ多少ノ違ヒガ起ツテ來テ居リマス、是等ハ或ハ特約取引ナリ、或ハ其他ノ取引關係ニ於キマシテ、種々ノソコニ弊害ノアルコトモ我ミハ認メテ居ルノデゴザイマシテ、是ガ若モ原蠶種管理ヲシテ、先程申上ゲマシタヤウナ品種ノ統一ガ出來マスレバ、玆ニ蠶質ノ丈夫ナ而モ絲量ノ多イモノヲ配布シテ、サウシテ養蠶家ノ蠶作安定ヲ圖ッテ行ク上ニ於テ利スル所ガ多イ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス、言ヒ換ヘテ見

マスレバ、絲量ガ多クトモ品質ノ弱イモノヲ多ク養蠶家ニ飼ハセマスレバ、ソコニ蠶作ノ不安定ガアルノデゴザイマスカラ、ソレ等ノ弊害ヲ原蠶種管理ニ依ッテ除イテ行カウト云フノガ、一ツノ原蠶種管理ノ目的ニナツテ居ル次第デゴザイマス、第三ノ繭質ノ統一問題ニ付キマシテ、假ニ蠶種ヲ統一イタシマシテモ、飼育方法ニ依ッテ非常ニ出來ク所ノ繭ノ質ガ違フノデアリマス、即チ蠶品種間ノ差ト一品種ノ飼育環境ニ依ル差ト、何レガ大ナリヤト斯ウ云フ御質問デゴザイマスルガ、固ヨリ繭質ヲ向上イタシマスル爲ニハ、飼育方法ノ之ニ及ボス影響ノ大ナルコトハ、私共モ認メテ居リマス、從テ今日養蠶實行組合等ヲシテ、或ハ指導員ヲ設置セシメ或ハ其他ノ指導ニ依リマシテ、飼育方法ヲ向上セシメテ行クト云フコトニ付テハ、固ヨリ今後モ努力ヲ拂ヒタイト思ッテ居ルノデゴザイマスガ、ソレノミヲ以テハ尙ホ繭質ノ統制ガ圖レナイ、即チ一養蠶實行組合ニ於キマシテ、色ミノ蠶種ノ繭ヲ作リマスル場合ニ於テハ、ソコニ非常ニ繭質ノ統一ガ出來テ參ルノデゴザイマスルカラ、飼育方法ノ指導ニ力ヲ入レマス共ニ、蠶種ノ品種ノ統一ヲ圖ルト云フコトト相俟ッテ參リマシタ時ニ、玆ニ初メテ繭質ノ統一

ト云フコトガ完成サレルノデアラウト信ジテ居ルノデゴザイマス、デアリマスルカラ何レガ大ナリヤト云フ問題デナク、兩者相俟ツテ、玆ニ繭質ノ統一ガ圖ラレテ行クト云フ風ナ考デ居ル次第デゴザイマス、第四ノ生絲品位ノ向上ニ付キマシテ、蠶品種ノ向上ガ生絲ノ品位ノ向上ニ資スル所大ナルコトハ、是ハ御認メニナツテ居ルヤウデゴザイマスガ、更ニ製絲技術ノ進歩發達ガ今日ノ生絲品位ヲ向上セシメタト云フ御説デゴザイマスガ、是ハ無論私共モサウ考ヘテ居リマス、單ニ蠶品種ノ向上ノミヲ以テシテ、生絲品位ノ向上ハ出來得ナイト考ヘテ居リマスルガ故ニ、製絲工程ニ於キマシテ、其技術ノ改善ニ付テハ、今後ト雖モ益々努力ヲ續ケテ行カナケレバナラヌト思ッテ居リマスガ、唯製絲技術ノ向上ダケデハ生絲品位ノ向上ハ矢張り困難デアリマシテ、蠶品種ノ向上ト相俟ツテ、共ニ生絲品位ノ向上ガ爲シ得ルノデアリマスカラ、此點モ併セテ政府トシテハ努力シタイト云フ意味カラ、原蠶種ノ管理ヲ致ス次第デゴザイマス、第五ノ蠶繭ノ統制ニ付キマシテ、原蠶種管理ヲ致シマシテモ、原種カラ普通蠶種ニナルマデニハ五年掛ル、デアアルカラ養蠶家ノ蠶種ヲ統制スル上ニ於テ、五年前カラ統制ト云フコトハ不可

能デハナイカト云フ御説ノヤウデゴザイマス
ルガ、元ミ養蠶家ニ参リマスル普通蠶種ノ
統制ヲ圖リマス爲ニ、原原種ノ統制ヲ圖ル
ト云フコトヲ致シマスレバ、御説ノ通りト
思フノデゴザイマスガ、此原蠶種管理法ニ
於キマシテ、蠶種類ノ統制ヲ考ヘテ居リマ
スルノハ、原原種ノミヲ以テ統制スルト云
フノデハゴザイマセス、普通蠶種ニ於キマ
シテモ、必要上已ムヲ得ザル場合、即チ蠶
種業ノ非常時ニ於テ、養蠶家ナリ、或ハ製
絲家ナリ、其他ノ各業者ガ自治的ノ統制ヲ
行フ場合ニ於テ、蠶種ニ付テモ、茲ニ強力
ナル統制、施設ヲ要スルト云フ場合ニ於テ
ハ、此法令ノ發動ニ依ッテ、普通蠶種ニ向ッ
テ統制ヲ行フト云フコトデゴザイマスルカ
ラ、四年後又ハ五年後ニ於ケル問題トハナ
ラナイコトト考ヘテ居ル次第デゴザイマ
ス、以上五點ニ附隨シテ、更ニ三點ノ御尋
ネガアツタノデゴザイマスルガ、其一點ハ、
政府ハ没落過程ニアル所ノ中小蠶種業者ノ
壊滅ヲ早メル考デアルカドウカ、是ハ固ヨ
リサウ云フ考ヲ持ッテ居リマセヌノデ、寧ロ
今日ノ蠶種業者ハ、蠶品種ノ數ガ非常ニ多
種デアルト云フ爲ニ、其經營費ナリ或ハ製
造費ナリ等ニ於キマシテ、色ミノ無駄ガ多
イノデゴザイマス、蠶種製造業者自ラ其

出費ニ苦ンデ居ルト云フ實情デゴザイマス
カラ、原蠶種管理ヲ實行イタシマスレバ、
是等ノ弊害モ除カレル、從テ經營モ確實ニ
ナルト云フ所カラ、寧ロ此中小蠶種製造業
者ガ本案ノ施行ヲ要望シテ居ルヤウナ次第
デゴザイマシテ、今日原蠶種管理法制定ノ興
論ト云フモノハ、無論養蠶家カラモ起ッテ居
リマスガ、此方面カラモ熾烈ナル要望ガゴザ
イマス所カラ見マスレバ、寧ロ壊滅ヲ早メル
ト云フコトハナラナイノダラウト考ヘテ居ル
次第デゴザイマス、唯出來ルダケ是等ノ中
小蠶種製造業者ヲシテ大ナラシムルト云フ
コトハ、是ハ結構ナコトト思ッテ居リマス、
從テ其設備等ニ付キマシテ、今後自家用原
蠶種ヲ認メテ行キマスル設備等モ、色ミ許
可條件ニ於キマシテ、相當設備ノモノヲ認
メテ行ク譯デアリマスカラ、ソレ等ニ適合
セシムル爲ニ、合同ナリ提携ナリヲ致サセ
マスルニ付キマシテハ、少シモ政府トシテ
ハ異議ノナイ所デゴザイマス、唯大蠶種製造
業者ヲ作ル爲ニ、府縣ノ蠶業試驗場ハ要ラ
ナクナルカラ、之ヲ廢止スル考ガアルカド
ウカト云フ御話デアリマスガ、府縣ノ蠶業
試驗場ハ國カラ配布イタシマスル原原種ノ
原種ヲ作ル設備トシテ、大體七割程度ノモ
ノヲ全國ニ置キタイト云フ考ヲ持ッテ居ル

ノデアリマスルカラ、其以外ノモノヲ蠶種
製造者ノ自家用原種製造ニ充ツル考デゴザ
イマスルカラ、今日ニ於キマシテハ府縣ノ
蠶業試驗場ヲ廢止スルノ方針ヲ持ッテ居リ
マセヌデゴザイマス、次ニ優良ナル品種
ヲ造ルニハ非常ニ大キナ熱心ヲ要スル、
大蠶種製造業者ガ持つ位ノ熱心ヲ持タナ
ケレバ出來ナイ、官吏ニ果シテサウ云フ
熱心ガアルカドウカ、寧ロ蠶品種改良ト
云フコトハ、民間ノ自由研究ニ委シテ置
ク方ガ宜イデヤナイカト云フ御説ニ拜
承イタシマシタガ、是モ原蠶種管理ニ件
ヒマシテ、一時非常ニ主張サレマシタ論
種ノ改良ヲ獨占スルコトニ依ッテ品種ノ低
下ヲ來シハシナイカト云フコトハ、或ル程
度サウ云フコトモ考ヘラレナイコトハナイ
ト考ヘルノデゴザイマスガ、今日マデ我ガ
蠶業試驗場ガ拂ッテ参リマシタ努力ト云フ
モノハ、決シテ民間ノ研究ニ優ルトモ劣リ
ハシナイト私ハ考ヘテ居リマス、今日出來
テ居リマス國蠶系ノ品種ノ、相當ニ各業者
ニ對シテ好評ヲ博シテ居リマスノモ、其結
果ト考ヘテ居リマス次第デゴザイマスカ
ラ、今後モ無論此蠶品種ノ改良ニ對シテ十
分設備モ致シ、又努力モ致シマシテ、決シ

テ民間業者ノ要望ヲ裏切ラナイヤウニ努力
ヲ力メテ行キタイト考ヘテ居リマス、從テ
ソレ等ノ點ハ御懸念ナキコトト考ヘル次第
デゴザイマス、民間ニ於キマシテモ色ミナ
研究ヲ致シテ戴クコトハ、或ル程度必要ト考
ヘテ居リマスノデ、民間デ原原種ニ付テ、優良
品種ニ付テ研究イタシマス場合ニ、政府モ認
メ、其結果優良品種ガ出來マシタ場合ハ、
蠶品種ノ審査會ノ議ヲ經テ、之ヲ國蠶系ニ
組入レテ行クト云フ方法ニ付テ、政府モ相
當考慮ヲ拂ッテ居ル次第デアリマス、最後
ニ政府カラ配布イタシマス所ノ國蠶系ニ付
テ色ミノ非難ガアルト云フ御話デアリマス
ガ、御述べニナリマシタ國蠶系ノ歐十八號
デアリマスとか日七號とか、是等ハ私共ガ
聞イテ居リマスノハ、相當評判ガ好ク、或
ル部分ニ於テハ他ノ原因カラ多少之ヲ本ト
致シマシタ普通蠶種ニ違算ガアツタコトモ聞
イテ居リマスルガ、併シソレ等ハ極メテ僅カ
ナ部分デ、大體ニ於テハ是等ノ品種ガ非常ニ
今日好評ヲ受ケテ居ルコトヲ聞イテ居リマ
スカラ、其點モ御心配ナイモノト考ヘテ居
リマス、大體大要デゴザイマスガ、御質問
ノ點ニ付キマシテ御答ヘ申上ゲマス次第デ
ゴザイマス
○委員長(侯爵大隈信常君) 御質問ゴザイ

マセスカ

○長野忠次君 大體ニ互リマシテ昨年既ニ
論議シ盡サレテ、而モ一ツノニ涉ッテ小
サイコトヲ申シマスレバ、是ハ銘々意見ガ
アリマスケレドモ、事ガ今日ニ至リマスル
迄ニハ、全國當業者間ニ非常ニ論究ヲ試ミ
ラレマシテ、是ハ今日ニ於テハ天下ノ輿論
トシテ、是ハ茲ニ現ハレテ御提案ニナッ
テデアリマスカラ、私共小サイ意見ハ申上
ゲマセズニ、此法案ノ、今日ニ於テハ滿場
ノ同意ヲ以テ通過スルコトヲ熱望シテ已マ
ナイモノデアリマス、是ハ個人ノ長野トシ
テデハナク、蠶種業ト云フ國家ノ斯業者ノ
多大ナル希望ヲ代表シテ、茲ニ此言葉ヲ申
上ゲマス次第デゴザイマス、次ニ此品種ノ
選定ト云フコトガ此原蠶種管理法ト附帶イ
タシマシテ、非常ニ必要ナモノデアルト存
ジマス、詰リ原蠶種管理法ヲ國家ガ設ケラ
レタルガ爲ニ、從來民間ノ努力ニ依ッテ非
常ナル進歩ヲ來シタモノガ、或ハ國家ノ統
制ニ依ッテ進歩ヲ阻止スルモノデハナイダ
ラウカト云フ懸念ノ如キモ、専ラ此審査會
ノ實際ノ行動如何ニ依ッテ決定スルモノデ
アルト思ヒマス、萬一管理法ヲ設ケタルガ
爲ニ其進歩ヲ阻害スルト云フヤウナコトヲ
來シマスレバ、全國ノ蠶絲業者ガ此管理法

ヲ政府ニ向ッテ、熱烈ニ要望シタ所ノ其趣旨
ニ全ク副ハナイコトニナリマスゾデアリマス
ルガ、此點ハ政府トシテモ十分御力ヲ御用ヒ
ニナッテ御研究ニナッテ居ルト存ジマスノデ、此
點ニ付テハ萬遺憾ナキ所ノ方法ヲ盡シテ下サッ
テ居ルト思フノデアリマス、現ニ國ノ方ニ蠶
業試驗所ノ本所ト出張所ト云フモノヲ持ッ
テ、非常ニ御研究ヲ御ヤリニナッテ居リマ
スルカラ、從來國ノ作ッタ所ノ品種ガ或ハ民
間ノ當業者ガ研究シタモノヨリ、一步遅レ
テ居ッタ時代ガアリマスルト私共モ信ジテ
居リマスル、私共ハソレデ寧ロ民間ノ當業
者ノ研究、若クハ民間ノ當業者ニ自ラ原原
種製造ヲ御許シ下サイマサウニ、個人ト
シテハ希望シタル所ノ第一人デアリマス、
併ナガラ是ハ段々研究シテ見マスルト、ド
ウシテモ今日ノ此蠶絲業ノ窮境ニ陥ッテ居
ル場合ニ、殊ニ亞米利加其他ノ生絲ノ需要
國ニ於キマシテ、人造絹絲ノ如キ大強敵ト
戦ハムガ爲ニハ、ドウシテモ此品種ヲ統一
シテ統制アル所ノ此原料ニ依ッテ戦ハンケ
レバナラナイ、單ニ一部ノ一ツカニツカ特
ニ優秀ナルモノガアツテモ、昔ノ戰場ニ於ケ
ル薙刀、刀、弓デ以テ戦フ時デナクシテ、
例ヘバ一人ノ大將軍ガ眞先ニ馬ヲ乗出シテ
戦フテモ、其力ニ依ッテヤルコトハ誠ニ少イ

ノデゴザイマスカラシテ、詰リ要スルニ日
本全國ノ水平線ヲズットノ引上ゲテ、サウ
シテ之ニ依ッテドウシテモ此蠶絲業ノ安泰
ヲ圖ラナケレバナラナイト思フノデアリマ
ス、詰リ此先刻申シマシタ或場合ニハ民間
ノ當業者ノ努力ガ、或ハ國デ御作りニナッ
タ所ノ品種ヨリ以上ノモノヲ拵ヘタ時代ガ
アツテ、一步研究ガ遅レテ居ッタヤウナ時モ
アッタト思ヒマスルケレドモ、今蠶業試驗所
ニ於キマスル非常ニ熱烈ナル研究ガ、段々
ト優良ナル品種ヲ出スコトニナリマシテ、
殊ニ又今カラ更ニ出ルモノガ段々ト御研究
中ノモノガ澤山アルト思ヒマスカラ、先以
テ之ニ依レバ、少クトモ現在ニ於ケル蠶絲
業ノ水平線ヲ大イニ高メ得ルト云フコト
ハ、斷ジテ間違ノナイモノト確信イタシマ
スルガ故ニ、此國家ノ力ニ依ッテ御統制下サ
イマスルコトハ、今日ハ其時機デアルト思
フノデアリマス、同時ニ今武井君カラ段々御
質問ガアツテ、是ハ忌憚ナイ御意見ヲ御述ベ
ニナッテ、此事ノ完成全キヲ御望ミニナル
御希望ノ上カラシテ、御意見ヲ御述ベニナッ
タト考ヘマスルガ、其御憂慮ニナッテ居ルヤ
ウナ、萬一品種ノ向上進歩ト云フコトヲ幾
ラデモ阻止スルヤウナコトガアツテハ、誠ニ
遺憾ニ堪ヘマセヌカラ、此審査會ト云フモ

ノハ餘程重要ナモノデアルト思ヒマス、之
ニ付キマシテハ如何デゴザイマスカ、少シ
ク是ハ此法案ノ條項ニ現ハレテ居リマセヌ
ケレドモ、若シ審査會ト云フモノニ付テハ組
織ノ内容ニ付テ、是ハ勅令デ御定メニナル
モノヲ、私共ガ餘リニ揣摩臆測スルコトハ
出來マセヌケレドモ、政府トシテ、農林當
局トシテ、ドウ云フヤウナ方法デ以テ此審
査會ヲ御ヤリニナル御考デゴザイマスル
カ、ソレ等ノ點ニ付テ御差支ノナイ限り、
我ミニ安心ヲ與フル爲ニ、其事ニ付テ御話
ヲ戴キマスレバ誠ニ仕合せト存ジマス、例
ヘバ國デ御研究ニナル外ニ、府縣ト云フモ
ノニ現在幾ラカ認メラレツツアル所ノ優良
品種ヲ、此審査會ニ掛ケルトカ、ソレカラ
片倉トカ郡是トカ、其他民間ノ當業者ニ於
テ、優秀ナリト認メラレテ居ルモノヲ拔取ッ
テ、サウシテ此審査會ニ掛ケル、或ハ今後
原原種ハ製造シ得ナイトシテモ、民間ノ熱
烈ナル當業者ノ爲ニ、斯ノ如キ自由研究ヲ
何等カノ方法デ御許シ下サツテ、サウシテ此
發見シタモノヲ審査會ニ掛ケテ行クト云フ
コトニ依ッテ、始終非常ナル努力ト新シキ研
究ニ依ッテ品種ガ進ンデ行クト云フコトガ、
最モ必要ダト思ッテ居リマスノデ、先刻蠶絲
局長ノ御話ノ中ニモ多少其點ニ御觸レニナッ

タヤウデアリマスガ、御差支ノナイ限り、其點ヲ御説明下サレバ誠ニ有難ウゴザイマス

○政府委員(井野碩哉君) 今長野委員ノ御

述ベニナリマシタ事柄ハ、全ク私共同感デゴザイマシテ、今後國ガ原原種ノ製造、原種ノ管理ヲ致シテ行キマス上ニ於キマシテ、出來ルダケノ優良ナル品種ヲ作り、サウシテ日本ノ蠶絲業ノ全體ノ標準ヲ高メテ行クト云フ所ニ、此法案ノ骨子ガアルノデゴザイマスルカラ、從テ其方面ニ向ッテ極力努力シテ行キタイ、ソレニハ此蠶品種審査會ト云モノガ相當ナル重要ナル部分ヲ占メルト云フコトモ、全ク同感デゴザイマシテ、從テ此組織等モ勅令ニ依リマスル官制ニ致シマシタヤウナ次第デゴザイマシテ、此内容ニ付キマシテハ、或ハ大體ノ事柄ヲ書キマシタ物ガゴザイマスルカラ、ソレヲ御手許ニ御配リ致シマスコトニ致シマスガ、其目的ト致シマスル所ハ、今御述ベノゴザイマシタヤウナ意味デ、此審査會ヲ運用シテ行キタイ、即チ政府ト致シマシテ決定イタシマスル原原種ノ品種ニ付キマシテハ、蠶業試驗所ヲシテ十分試驗研究ヲセシメタ優良ナルモノヲ此審査會ニ掛ケテ、此審査會ハ相當ノ蠶絲業各方面ノ

權威者ヲ網羅シタ審査會ニ致シマシテ、其審査會デ十分其品種ニ付テ檢討ヲ行ッテ、其決定ヲ待ッテ國ノ定マツタル所ノ原原種ニ致ス、

又府縣或ハ民間ニ於キマシテノ優良品種ニ關シマスル研究ハ、ソレハ研究トシテ尙ホ持續セシメテ、其中ニ優良ナル品種、即チ國蠶系ヨリモ更ニ良キ品種ガ發見セラレマシタ場合ニ於キマシテハ、此蠶品種審査會ニ掛ケマシテ、サウシテ其決定ヲ待チマシテ、之ヲ國蠶系ニ繰入レテ行クダケノモノニナツタ場合ニハ、相當ノ價格ヲ以テ其品種ヲ買入レルコトニ致シマシテ、國蠶系ニ加ヘテ行クト云フコトニ致シタイ、斯ウ考ヘテ居ル次第デゴザイマシテ、原蠶種ヲ國家管理ニ致シマシタ爲ニ、從來民間デ自由ニ作ッテ居リマシタ場合ヨリモ、品種ガ劣ルト云フコトノ非難ノ起ラナイヤウニ、政府ト致シマシテハ極力之ニ努メテ居ル次第デアリマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 如何デゴザイ

マセウカ、大臣モ今日ハオ出デニナリマセヌシ、明日ハ御出席ト思ヒマスカラ、今日ハ是デ散會スルコトニ致シマス、明日ハ午前十時カラ開會イタシマス

午後三時一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 侯爵大隈 信常君
副委員長 子爵片桐 貞央君
委員

伯爵黒木 三次君
子爵伊集院兼知君
子爵大岡 忠綱君
男爵足立 豐君
男爵肝付 兼英君
男爵岩村 一木君
宇野 勇作君
長野 忠次君
武井覺太郎君

政府委員

農林政務次官 子爵織田 信恒君
農林省蠶絲局長 井野 碩哉君

昭和九年三月九日印刷

昭和九年三月十日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局